

中学部 国語科 学習指導案

日 時：平成20年12月3日（水）

10：40～11：20

場 所：中学部2年B組教室

1 題材名 「おさるのジョージ おもちゃ屋さんへいく ～『動作』を表す言葉～」

2 題材の目標

- (1) 物語のおおよそのあらすじを知り、ジョージが「どうしたか」をしかけ絵本を操作して表現したり、言葉で表したりする。
- (2) 読み手と聞き手に分かれ、「しかけ」を操作する順番を守って、本を読み進める。

3 生徒と題材について

(1) 生徒について

本グループは、男子1名、女子1名、計2名の生徒から成る。それぞれダウン症候群と自閉症的な傾向を併せもつ。男子生徒は、小学校2学年程度の漢字を読み書きすることができる。独り言が多かったり、困ったときにどのように伝えたらよいか分からずイライラしたりすることもあるが、パターンのある受け答えができる。女子生徒は、自発的な発語は少ないが、聞かれたり促されたりしたことには簡単な返事や身振りで答えることができる。明確に発音できる言葉が限られているが、教師の言葉をまねしたり、「・・・ます。」などと語尾を強く話したりして、やりとりしようとする。

1学期には、NHK「みんなのうた」で人気のキャラクターを題材とした絵本や、本題材の前には「おさるのジョージ どうぶつえんにいく」という本を読む学習を行った。女子生徒は、絵本を読んでいる教師や男子生徒に関心を示し、楽しんでいた。本を読むことをとおしてお互いの存在を意識し、かかわりをもつことが期待できるグループである。

(2) 題材について

本題材は年間をとおして行う学習の一つである。本を読むことへの関心を高め、読書活動の広がり期待している。

絵本「おさるのジョージ おもちゃ屋さんへいく」は、ジョージという名前の‘知りたがり’の猿がおもちゃ屋に行き、見たことのないおもちゃで遊んだり、棚の上の方にあるおもちゃを子どもたちのために取ってあげたりするという内容である。‘知りたがり’のジョージが自分なりに考えて行動する点がユニークな物語であり、生徒たちの興味をひきやすいと思われる。

絵本を読んだり聞いたりする学習を繰り返すことで、挿絵を手掛かりに「あらすじ」の理解を促すことができると思われる。更に、本に出てくる「まわす」「とってあげる」などのイメージしやすい「動作」を表す言葉に触れる機会を多く設け、何度も同じ本を読む学習をとおして、それまでは知らなかった語句に親しみ、言葉の意味も感じ取れるようになるのではないかと考え、本題材を設定した。

(3) 指導にあたって

- ・「本を声に出して読む」ことによる視覚、聴覚からの文字情報の刺激が過度になるのを防ぎ、落ち着いて学習に取り組むことができるように、得意な操作的な活動をはさんで情緒の安定を図る。
- ・集中力の持続を図るために、本を題材とした学習の他に、「写真クイズ」を取り入れる。これは年間をとおして行う個々の実態に応じた課題学習であり、行事や学習場面の写真を見て「何をしているか」を考える学習である。
- ・学習内容に見通しがもてるように、授業の流れは常に一定とする。
- ・おおまかなあらすじを知り、多くの文字情報の中から特に知ってほしい言葉に注目しやすいように、紙芝居のように編集した絵本を使用し、一枚の場面に2～3文を厳選して提示する。また、言葉を動作化しやすいように、絵本に「しかけ」を盛り込む工夫をする。
- ・質問に答えようとしているときや、課題ができたとき、答えが分からなくて困っているときのやりとりを大切にする。その場面で表現したい内容をできるだけ確かな言葉で話すことができ

るように、教師が気持ちを代弁して話し方を教えたり、適切なせりふを紙に書いて提示したりする。

- ・生徒がお互いを意識して本を読み進めることができるように、読み手と聞き手に分かれ、「しかけ」を操作する順番を決め、相手の活動を待ったり、注目したりする場面を設ける。

4 指導計画（総時数14時間 本時 9／14）

| 学習活動 | 時数 | 主なねらい |
|---|-------------|---|
| <p>(1) 教師と一緒に、絵本「おさるのジョージ ～おもちゃやさんへいく～」を読む。</p> | 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物（ジョージ、きいろいぼうしのおじさん、おもちゃやのてんいん）を知る。 ・物語のあらすじに関心をもつ。 ・教師と声を合わせて読むことで、本を声に出して読む際の適度なスピードを知る。 |
| <p>(2) 場面ごとに「本のクイズ」に答えて、あらすじやジョージの「動作」を答える。</p> <p>○本を読んだり、しかけを操作したりする。</p> <p>○挿絵を見て、ジョージや店員が何をしているかを考えたり、答えたりする。</p> <p>①おもちゃ屋に行く場面 ②見たことのないおもちゃで遊ぶ場面 ③フラフープで遊ぶ場面（その1） ④フラフープで遊ぶ場面（その2） ⑤店員におこられて逃げ出す場面 ⑥子どもたちにおもちゃをとってあげる場面（その1） ⑦子どもたちにおもちゃをとってあげる場面（その2） ⑧子どもたちやお客に喜ばれる場面 ⑨店員からお礼を言われる場面</p> | 9 | <ul style="list-style-type: none"> ・本の読み手と聞き手に分かれ、順番を守って「しかけ」を操作することで、友達と一緒に読み進めることに慣れる。 ・「そこらじゅう」「かおをしかめて」など、ふだん聞き慣れていない語句を聞いたり、正しく読んだりする。 ・「本のクイズ」で連続した2～3ページずつの場面を読んで、大まかなあらすじを知る。 ・あらすじに沿って、挿絵カードを並べる。 ・それぞれの場面の挿絵を見て「ジョージや店員が何をしているか」を考え、該当する挿絵カードを選ぶ。または、「動作」を表す言葉を話したり書いたりする。 <p>それぞれの場面で出てくる「動作」を表す言葉</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 「でかける」 ② 「あそぶ」 ③④ 「ひっぱる」「回す」 ⑤ 「にげる」 ⑥⑦ 「とってあげる」「投げてあげる」「わたしてあげる」 ⑧ 「言う」 ⑨ 「わたす」「言う」 |
| <p>(3) 訪問学級の友達に読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビデオに撮影する。 ・撮影したビデオを見る。 ・訪問学級の友達に手紙を書く。 | 本時 (7/9) | <ul style="list-style-type: none"> ・読み手と「しかけ」を操作する人に分かれ相手の活動に合わせて本を読み進める。 ・ビデオを見て、相手の活動に合わせて読み進めているかどうかを見る。 ・「ビデオを見てください」というメッセージを自分なりの言葉で表現する。 |

5 本時の計画

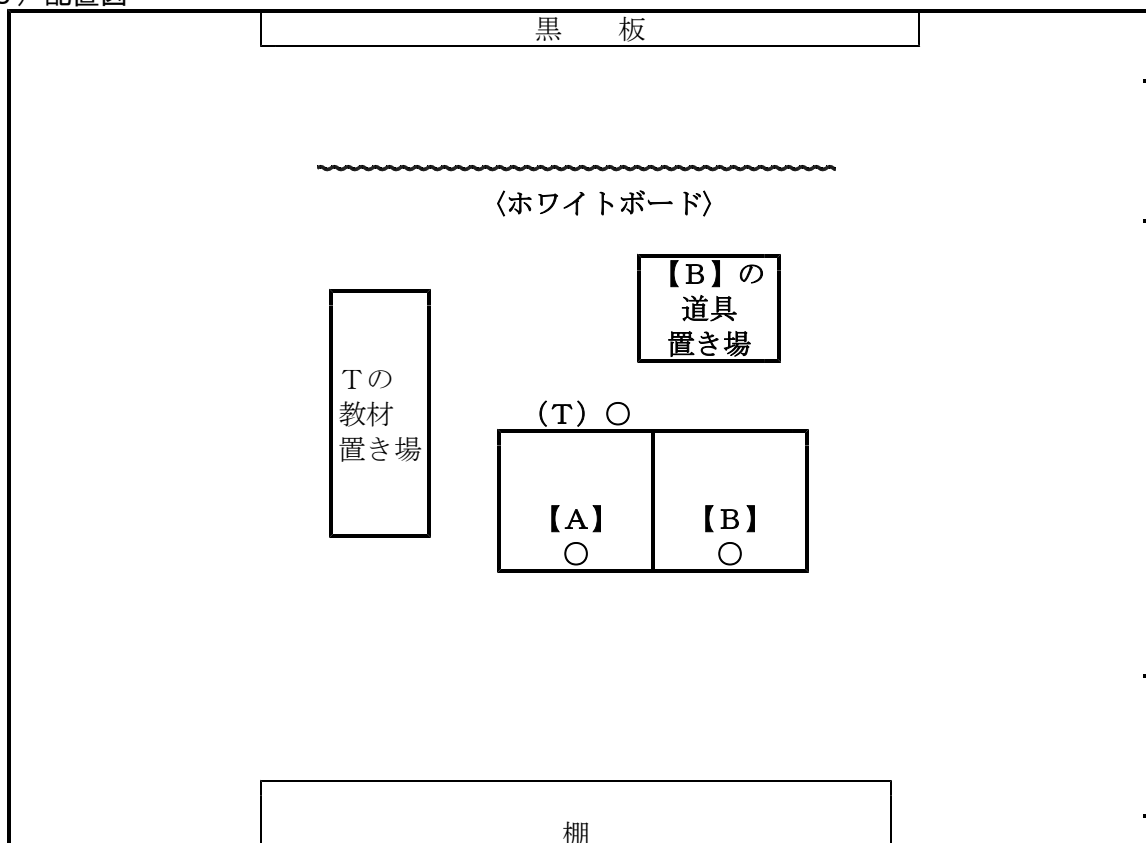
(1) 目標

- ・「ボールを投げてあげる場面」「おにんぎょうをわたしてあげる場面」のジョージの「動作」を答えたり、挿絵カードを順番に並べたりする。
- ・台本の顔写真や挿絵を手掛かりに、順番に本の「しかけ」を操作する。

(2) 個人目標と生徒の実態

| | 個人目標 | 題材における実態 |
|-----------------|---|---|
| 【A】 女 | <ul style="list-style-type: none"> ・挿絵カードの中から、「ボールを投げてあげる」カードと「おにんぎょうをわたしてあげる」カードを選んで、あらすじの順番に並べる。 ・【B】が本を読んだ後に「しかけ」を操作することが分かり、教師が読むジョージの「動作」に合わせて操作する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物を手掛かりに、二枚の挿絵カードから、質問に合った挿絵カードを選ぶことができるようになってきている。 ・絵本を読んでもらうことに興味があり、読み手を意識して聞いている。しかけ絵本が好きで、あらすじが分かってくると、自分から場面に応じて操作する。 |
| 【B】 男 | <ul style="list-style-type: none"> ・挿絵やヒントの短冊を見て、「○○してあげる」ことを自分なりに話し、動作の言葉をプリントに書く。 ・台本を手掛かりにし、「台本を読む」「自分でしかけを操作する」「【A】が操作するのを待つ」の順番を守って、本を読み進める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・本を読む他の人の声や、文字の多い絵本が苦手で、自分でどんどん読み進めたり、独り言を多く話したりする。 ・本題材で「動作」を学習することを意識してきており、自分に言い聞かせるように、文の述語を大きな声で読むことがある。 ・正解が分からない問題には混乱し、様々なことを話し続けるが、答え方のパターンが分かると、自信をもって答えられる。 ・しかけ絵本が好きで、積極的に操作するが、友達が操作していると待てないときもある。 |

(3) 配置図



(4) 展開

| 時間(分) | 学 習 活 動 | 教 師 の 支 援 と 動 き | | 準 備 物 |
|-------|---|--|--|--|
| 1 | 1 あいさつをする。 | ・はっきりとあいさつの言葉が言えるように、一人ずつあいさつする機会を設ける。 | | |
| | | 【A】 | 【B】 | |
| 1 | 2 「国語のメニュー」と、登場人物を確認する。 | ・「おさるのジョージ」の登場人物を確認できるように、一緒に名前を言う。 | ・本時の学習に見通しがもてるように、「国語のメニュー」を一枚ずつ読む。 | ・登場人物の絵カード ・メニューカード |
| 2 8 | 3 「おさるのジョージ」を読んで、クイズに答える。 ① 読み手と聞き手に分かれ、順番にしかかけを操作しながら一通り読む。 | ・ジョージの動作に合わせてしかかけを操作できるように、「せーの」と一声掛けてから文を読んで、しかかけの操作を促す。 | ・【A】がしかかけを操作するのを待って文を読むように、場面ごとに台本を渡す。 ・本を早口で読んでいるときは、「Aさんが聞きやすいように、ゆっくり」と言葉掛けしたり、小さな声と一緒に文章を読んでスピードを調整したりする。 | ・本 (絵のみ) ・台本 (文のみ) |
| | ② ジョージや本の挿絵のパズルに取り組む。 | ・【A】が意欲的にジョージのパズルを解けるように、ピースの向きを動かしやすい方向に置く。 | ・【B】が集中力を途切れさせないように、挿絵パズルを解くペースに合わせて、問題数を調整する。 | ・パズル ・ストップウォッチ |
| | ③ 教師が「本のクイズ」に出てくる場面を読むのを聞く。 | ・ジョージが何をしているかに注目して正しく挿絵カードを選べるように、【A】にとって分かりやすいカードを二枚提示し、どちらかを選ぶようにする。 | ・答えの動詞が導き出せないときは、最初の一文字をヒントの短冊に書いて見せたり、その場面の台本の文章に注目するよう促したりする。 | ・挿絵カード ・プリント ・ヒントの短冊 ・「本をかしてください」のカード |
| | ④ ②の場面の「本のクイズ」に答える。 | ・あらすじの順番に挿絵カードを並べることができるように、あらかじめ選んだカードの前または後ろのカードを並べておく。 | | |
| 7 | 4 「写真クイズ」に答える。 | ・写真を見て、「いなようさい」「バス」などと、省略しないで話そうとすることができるように、一緒に発音する。きちんと発音できたら「上手に話せたね」と称賛する。 | ・自信をもってクイズに答えることができるように、話した言葉をすぐ書き留めて見せたり、ヒントとなる文を書いた穴埋めのカードを提示したりする。 | ・写真 ・文字カード(シール) ・スッチブック ・両面テープ ・「おしえてください」のカード |
| 2 | 5 本時の学習を振り返る。 | ・学習した内容を振り返ることができるように、使用した挿絵カードを提示して、再度「ジョージが何をしているか？」と質問し、プリント等で正解を確認する。 | | |
| 1 | 6 あいさつをする。 | ・はっきりとあいさつの言葉が言えるように、一人ずつあいさつする機会を設ける。 | | |

(5) 評価

| | |
|-------------|--|
| 【生徒】 | <ul style="list-style-type: none">・読み手、聞き手に分かれ、順番を守って本のしかけを操作することができたか。・挿絵を見て「ジョージ」の動作や行動を考え、挿絵カードを選んだり、何をしているか話したり、書いたりして、表現することができたか。 |
| 【教師】 | <ul style="list-style-type: none">・生徒同士が役割分担を意識して本を読み進めることができるように、適切なタイミングで台本を渡したり、しかけを操作するように促したりすることができたか。・「本のクイズ」や「写真クイズ」で生徒が話した言葉を、より適切な表現に導き「分かった」と実感できるように、挿絵カードやヒントを出すタイミング、生徒の言葉を引き出すようなかわり方は適切であったか。 |